

今回は、3月4日に1年間を通して急性期看護研修での学びを看護の質を高めることを目指して実践の場での取り組みを発表していただきました。取り組みの発表が素晴らしいと思うものを、研究内容やパワーポイントの見やすさ、プレゼン力などを総合して、発表の場に出席いただいた皆さんから投票していただきました。投票の結果、最優秀賞1名、優秀賞1名、特別賞1名が決定しました。受賞者の①アピールポイント ②工夫した点③看護への意気込みをインタビューさせていただきました。皆さんにご紹介し、共有させていただくことにします。



◆最優秀賞：岩見 美奈主査（2A）「ICDSCを導入して」

アピールポイント：急性期治療を受ける患者の多くがせん妄を発症するため、評価スケールを用いて評価できるように取り組みました

工夫した点：取り組みでは“ICDSC見方表”を作りわかりやすく、パワーポイントでは明るく、見やすいスライドを作りました

看護への意気込み：HCUに入室した段階で、せん妄は起こるため、危険行動を最小限にできるような取り組みを行っていきたい。あとは、この評価を退室後も継続していければいいなと思っています



◆優秀賞：長井 千恵主査（3A）「1年目看護師に対する症例シミュレーション」

アピールポイント：新生児から高齢者までの様々な入院を想定しプリセプターの全面協力の元、一年目のスタッフへシミュレーションの実施と効果

工夫した点：シミュレーションは日々の業務を振り返る内容にし、一人で行う事での気づきや課題を再確認できるようにしました

看護への意気込み：今回は受け入れ準備のシミュレーションがメインの対応でした。一番大切なのは、実際に受け入れ後の対応や観察点、全身のアセスメントです。自己学習とフォローアップを行っていくことが課題です



◆特別賞：野中 美智主査（外来）

「外来診療科における急性期の看護師の役割とは -ホットライン用紙の見直し-」

アピールポイント：ホットライン担当の外来看護師の役割は、外来診療中であっても、救急隊からの受け入れ要請の電話対応で患者の情報を正確に聞き取り、どの診療科に依頼すべきかを瞬時に考え、担当医師に伝えていく。平日の救急車受け入れ窓口は外来看護師の責任ある仕事です

工夫した点：患者情報を素早く聞き取るための用紙の改善。わかりやすい図形の作成、病棟看護師にも伝わりやすい表現方法を工夫しました

看護への意気込み：看護師としてあと1年！！

初心にかえり、患者に寄り添う看護をめざします！！



皆さまお疲れ様でした
Vol.15 担当：堀尾 吉川